

花巻市地域おこし研究所

地域コミュニティにおける自発的協力関係を促す
趣味サークル活動プロセスの研究

2021年3月31日

花巻市地域おこし研究所
研究員 氏名 高橋 誠

1. はじめに
2. 研究の概要
3. 調査対象の協力関係
4. 選定理由
5. 調査対象
6. 研究で明らかにしたこと
7. プロジェクト
8. 補足資料

- ・花巻市は地域の課題解決のために地域運営組織を支援している
- ・最終目標は協力者を増やすことによって、地域課題を解決するコミュニティの実現に寄与すること

地域の課題は公共サービスだけでも、地域のコミュニティだけでも解決できない

花巻市は、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する地域運営組織である「コミュニティ会議」を支援している



花巻市のコミュニティ会議の課題に、担い手や参加者の不足がある

コミュニティ会議への協力者を増やすことによって、地域課題を解決する**地域コミュニティの実現**を最終目標とする

地域運営組織の定義:「地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織」(総務省,2019)。
「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」で、2019年度**現在、5,236団体**を2024年度までに**7,000団体を形成する**ことを定め、形成や運営の支援を行っている(内閣府,2020)。

目的: 自発的協力が行われる過程を明らかにする
 調査対象: 趣味サークル「八日市つるし雛同好会」と協力者

1 目的

趣味サークルの活動を契機に、趣味サークルや地域運営組織のそれぞれの事業に自発的協力が行われている事例を調査し、組織や地域住民の主体間に自発的協力が行われる過程を明らかにする。

2 調査対象

八日市つるし雛同好会とその活動に自発的協力をしている地域運営組織と地域住民

趣味サークルの
展示会



地域運営組織と地域住民
の自発的協力



地域運営組織の事業への自発的協力



・地域固有の文化ではなく、個人的な趣味なので、協力する**必要が無い**にもかかわらず、自発的協力が生まれている

・60代以上の女性9人の趣味サークル**単独の主催**で、市の**支援を受けず**に開催

調査対象の活動: 図書を参考に制作したつるし雛や人形等の展示
研究の成果: 自発的協力が行われる過程を明らかにした
期待される効果: 他の地域コミュニティに活用して、自発的協力関係を生み出す

3 調査対象の活動

2006年から「雛まつり」として、2021年を除いて毎年2月中旬から3月初旬まで集会施設で開催

4 研究の成果

趣味サークルの活動が契機になって、組織や地域住民の主体間に自発的協力が行われる過程を明らかにした

5 研究によって期待される効果

この明らかにした過程を他の地域コミュニティに活用して、自発的協力関係を生み出す



つるし雛とは

- ・ちりめん細工の人形などを輪に下げた糸につるしたもの
- ・静岡県東伊豆町稲取地区、福岡県柳川市、山形県酒田市が「日本三大つるし飾り」
- ・八日市つるし雛同好会は稲取地区の図書を参考に制作し展示している

赤字：自ら進んで協力する意味としての**自発的協力**、黒字：相手の依頼からの協力

地域住民

- ・駐車場の整理、**除雪作業、作品の配送、会場の準備・片付、案内看板等の設置**(6人)
- ・家族写真撮影、**1時間おきのトイレ清掃**(1人)
- ・作品の製作、展示期間中の案内、**会場準備・片付**
- ・**農産物や農産加工品、菓子などの販売**(約20人。ただし、現在休止中)
- ・**作品の制作と材料の提供**(12人以上。詳細不明)

- ・「ひな菓子作り会」地域の伝統菓子「きりせんしょ」や「ひなまんじゅう」を子供会へ講習
- ・**イベント前に施設周辺の落ち葉拾い、草取り等の清掃**
(ただし、上記2つの協力は現在、中止)
- ・**生涯学習事業への参加**
(7人ただし現在3人が活動)

同好会

- ・「文化祭」同好会代表の指導で婦人会会員が手芸作品を製作、展示。昼食の調理
- ・「敬老祭」作品の展示
- ・「盆踊り」婦人会員として参加
- ・「ふれあい昼食会」福祉団体主催の一人暮らし高齢者の昼食会の見学対応
(9人)

地域運営組織

- ・**会場の準備・片付、施設利用料支援、案内看板やのぼり旗の作成と設置**
- ・**会場の管理、会場準備・片付、情報発信、団体予約の調整**
(8人)

インタビュー調査によって同好会の活動に関わることによって地域運営組織や地域住民に自発的協力の交換が拡散されていることが観察された

何年か前に行ったら地域の人たちが除雪していた。ああ、**地域づくり**になっているんだなあと感じた。

元新聞記者



多い時は大変だ。朝5時から除雪だと言われて。みんなで除雪をして。除雪ボランティア終わってからここにきて除雪して。

駐車場係



文化祭のときに、「俺は掃除班だ」と言って落ち葉拾い

「俺で地域のあれになるなら、俺でいいなら」「俺も何か地域にするか」

高齢者グループ



盆踊りとか体育祭の支援をしているが基本的にここ**(雛まつり)**で行き来している人たちが、いろんな影響しているなという気がする。影響というか、**この地域をまとめていくうえでの「にかわ」のような役目**をもっている。

地域運営組織



他の趣味サークルにおいて、自発的協力の関係が見られないことから、趣味サークルのある種の活動において、自発的な協力の交換を促す過程があると考えられる。

調査対象の選定理由は、協力が無い状況から自発的協力までの過程を経ていることから、調査することでその過程を明らかにすることができるため

- ・趣味サークルの活動が地域の課題を解決していないと考えられていた
- ・地域固有の文化ではない
- ・当初、住民に普及されていなかった

コミュニティ会議や住民が趣味サークルに協力する理由がなかった



そのため、当初は、コミュニティ会議や住民が趣味サークルへの協力はなかった



現在は、コミュニティ会議や住民がそれぞれの事業に自ら進んで協力している

◆調査対象の選定理由

協力が無い状況から自発的協力が行われるまでの過程を経ていることから、調査対象を調べることでその過程を明らかにすることができる

その過程を利用できれば、自発的協力関係が生じていない地域コミュニティ内の団体や住民の相互の自発的協力関係の発生が期待できる。

花巻市

2006年1月に1市3町が合併
合併時105,932人
2020年11月末現在94,501人

八日市地区

2020年11月末現在1,079人



地域運
営組織

**八日市地区コミュニティ会議(地域運営組織)**

花巻市は、小学校区等に、コミュニティ地区を27区設定。
その目的は、地域課題への取組等(総務省の地域運営組織)
花巻市は、1コミュニティ会議に平均約740万円を交付。
コミュニティ会議は、交付金をハード事業やソフト事業に活用。
八日市地区コミュニティ会議は旧八日市小学校区を管轄する

八日市つるし雛同好会

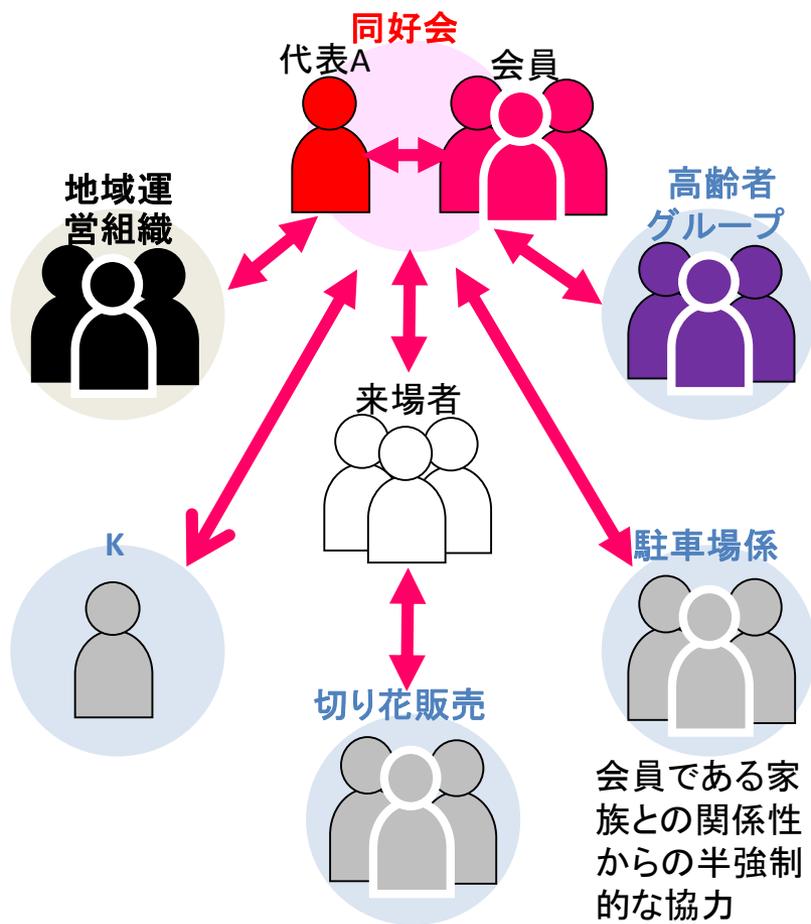
地域住民等

調査対象	構成員および活動内容
八日市つるし雛同好会	<ul style="list-style-type: none"> ・八日市地区の女性9人でつるし雛や干支などの手芸作品の制作や展示をしている組織。 ・後に代表となる方がその妹と孫達のために5基作成。 ・2004年に高齢者のサロン(ふれあい昼食会)に創作雛と併せて展示 ・2006年から雛まつりとして展示

調査対象	構成員および活動内容
高齢者グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・近所の仲間70代と80代の女性7人(現在3人) ・会場準備、展示期間中の作品の説明
補助的な手伝いをする方	<ul style="list-style-type: none"> ・同好会会員の夫1人 ・準備や片付け、記念写真の撮影や1時間おきのトイレ掃除などを協力
駐車場係	<ul style="list-style-type: none"> ・同好会の会員の夫4人と会員の子1人 ・のぼり旗等の設置、展示の飾りつけや撤去、駐車場の除雪、期間中の駐車場係として協力
切り花の販売グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・花の生産農家1人と販売を手伝う方10人 ・切り花を2011年頃から雛まつりの際に販売。農家1人は駐車場係として協力。2020年は花の販売をしていないが、駐車場係として手伝っている。
元新聞記者	<ul style="list-style-type: none"> ・2004年頃から数年、地元の新聞社の花巻地域を管轄する支社に勤務 ・雛まつりとして開催される前からつるし雛の記事を毎年、掲載。2019年度末に新聞社を退職。

地域運営組織：代表・同好会の結果に対する返礼として協力
同好会会員・高齢者グループ等：作り方の指導に対する返礼として協力

代表・同好会への返礼



切り花販売グループは
経済的価値の取得

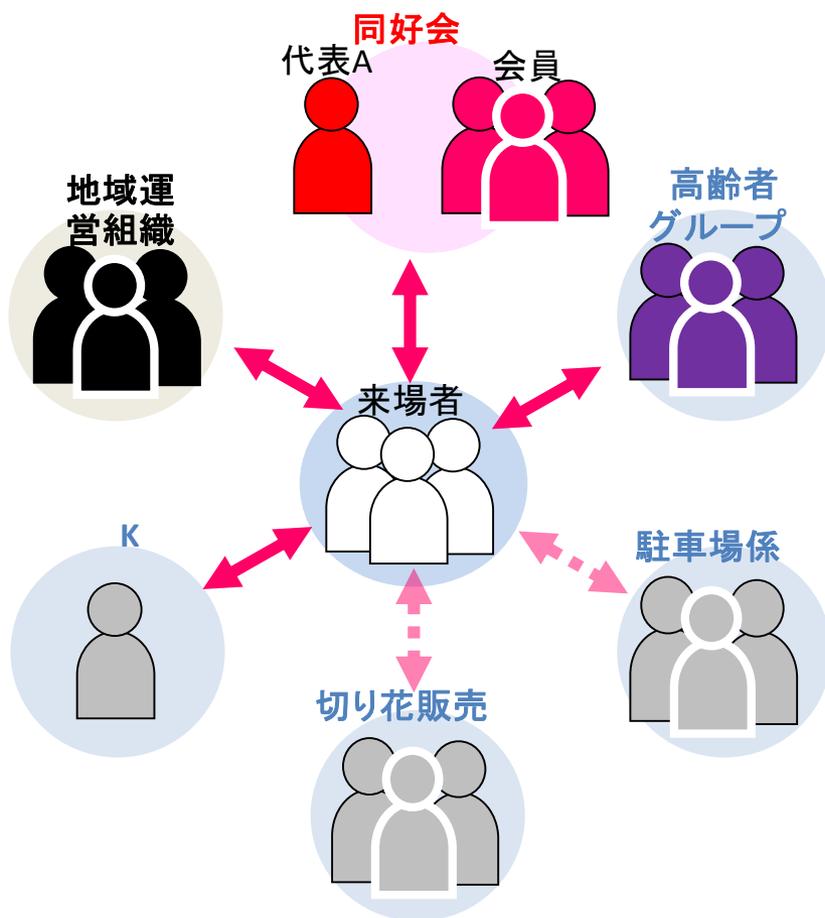
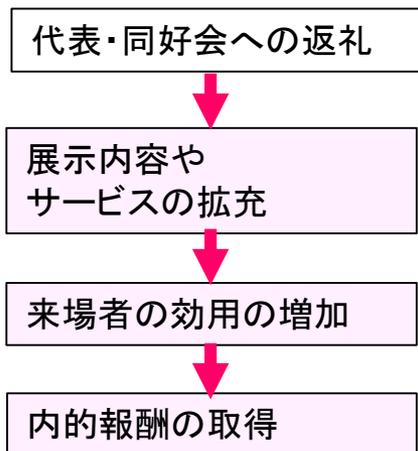
自分が受けた結果や協力に対する直接の返礼

・地域運営組織は、地域の知名度上昇への返礼として代表・同好会に協力する。

・同好会会員、高齢者グループは代表の作り方の指導への返礼として代表に協力する。
・補助的な手伝いをするKは代表の過去の地域の事業への返礼として代表に協力する。

協力の目的が来場者へのサービスに変容することで、展示内容やサービスが拡充される。

来場者の反応を見ることで、協力者は内的報酬を取得している。

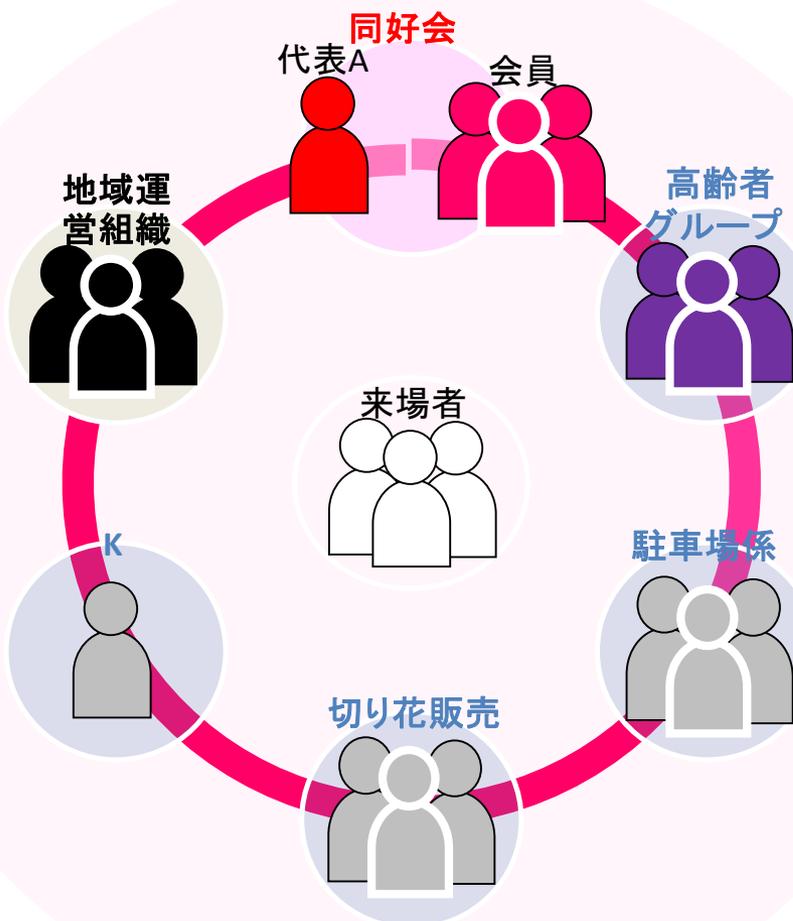
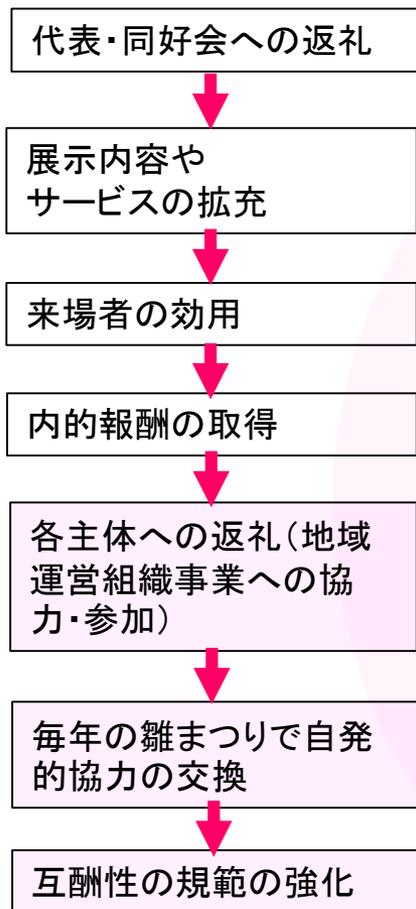


代表や同好会に対する返礼から来場者へのサービスへの変容

外部の高い評判によって、協力の目的が来場者へのサービスになる。来場者が喜ぶ姿を協力者が見ることで、充足感や達成感、連帯感の内的報酬を取得している。

切り花販売グループと駐車場係では内的報酬が確認できなかった

各主体が協力することで間接互恵性が形成されている。その協力を返礼することで間接互恵性が拡散している。協力の交換が毎年、行われることで、互酬性の規範が強化されている。



協力した相手とは別の相手から返礼がある仕組みが形成されている。その協力をさらに返礼として協力している。

それぞれの協力が外部の高い評判をもたらすことで関係者の充足感や達成感、連帯感の内的報酬が増加している

そして、その協力への返礼として、例えば地域運営組織の文化祭、敬老祭、盆踊り等の事業に参加・協力している。

また、毎年、雛まつりで協力の交換が行われるので、その関係が強化されている。

地域運営組織や地域住民が自発的協力を行う可能性がある条件
 ①外部の評判が高い、②外部の評判を直接認識できる、③期待への貢献を認識できる、④活動の決定に影響を及ぼさない支援

地域運営組織や地域住民が趣味サークルの活動に自発的協力を行う可能性がある4つの条件

過程を通して明らかになった条件	根拠
①外部の評判が高い	魅力のある作品に予想以上の集客がある。そのことで地域運営組織が自発的に協力している。
②外部の評判を直接、認識できる	来場者の感動や満足する姿を直接、見ることで得られる内的報酬を得ている地域住民が、自発的に協力している。
③期待への貢献を認識できる	協力内容が来場者の期待に込えていると認識している地域運営組織の役員が自発的に協力している。
全体を通して明らかになった条件	根拠
④決定を制限しない支援	現在、行政からの支援はない。地域運営組織は、趣味サークルの決定を尊重し、趣味サークルが必要としている支援を行う。趣味サークルは財政的支援が無いことで、自ら活動資金の取得を検討し、また、その行動の基準を来場者の効用に限定したことで外部の評判を向上させている。このことが、活動を主体的に行うことにつながっている。

上記の①から④の条件をどれか1つもしくは組み合わせることによって、自発的協力が促進されていることを観察できなかったことから、本調査対象においては、必要条件や十分条件ではないが、結果に影響する可能性があると考え

方向性

目的: 地域コミュニティの事業に自ら進んで協力することができる機会を創り、活動を継続させる

キーポイント: 外部の評判、場を創る、支援の方法

プロジェクトの方向性

1最終目的 他の地域コミュニティに自発的協力関係を生み出すこと

そのために

2プロジェクトの目的 趣味サークルの活動を支援することによって、地域コミュニティの事業に自ら進んで協力することができる機会を創り、活動を継続させる

3研究から明らかになったキーポイント

- **場を創る** : 活動の契機や協力する機会があること
(つるし雛の制作と展示)
- **外部の評判**: 評判が高く、その評判を認識できること(来場者数, マスコミ)
- **支援の方法**: 実施主体の決定を制限しない支援を行うこと

- 1コミュニティ会議向けのマニュアルの作成と市への提言、研修会の開催
- 2趣味サークルの価値を周知する事業の開催

基本計画

1 コミュニティ会議向けのマニュアル作成と市への提言、研修会の開催

目的 趣味サークルがつくる価値をコミュニティ会議役員が認識する

(1)事例研究 コミュニティ会議や趣味サークルの活動上の課題の把握
その要因の調査

(2)コミュニティ会議向けのマニュアルの作成や市への施策の提言

ア)コミュニティ会議による趣味サークルへの支援のためのマニュアル

イ)市によるコミュニティ会議や趣味サークルへの支援のための施策

(3)コミュニティ会議役員向けの研修会の開催

役員と地域との対話によって、お互いに事業内容と課題を理解し、趣味サークル活動の展開を検討する

2 趣味サークルの価値を周知する事業の開催

目的 活動の契機や外部の評判が得られる機会を意図的につくる

(1)場を創る:クラフトフェアの開催と展示、冊子・ネットでの紹介

(2)外部の評判:来客数や販売額、ネット閲覧数による評判を測定する

(3)評判の認識:その把握した評判を地域住民に周知する

1コミュニティ会議向けのマニュアル作成と市への提言、研修会の開催(案)

現在の実施方法案

1 コミュニティ会議向けのマニュアル作成と市への提言、研修会の開催(案)

(1)今までのヒアリングからの趣味サークルの活動上の課題

(ア)新型コロナウイルス感染防止のために、公民館等の管理者によるサークル活動の制限や会員による自粛⇒交流機会の減少

(イ)内容のマンネリ化⇒参加者の向上したレベルに合わない活動内容による参加者数の減少

(2)把握した課題から検討するコミュニティ会議向けのマニュアルの作成や市への施策の提言の内容

(ア)新型コロナウイルスの下での趣味サークルの公共施設使用の支援

(イ)住民の趣味活動の発掘とその周知に関する支援

(3)コミュニティ会議役員向けの研修会の開催

コロナによる、趣味サークルの交流機会の減少とコミュニティ会議事業(高齢者サロンや敬老祭等の各種イベント)の中止などの課題の共通性を理解し、合同事業などを検討する

8 補足資料：研究方法

- ・調査手法は、半構造化インタビューや参与観察、ドキュメントデータ
- ・分析手法は、SCAT

1 調査手法

調査手法	内容	採用理由
半構造化インタビュー	サークル代表、地域運営組織役員、地域住民 計16名	筆者とインタビューイが知り合いのために内容が多岐にわたることで論点が曖昧になることが事前に予測できたため、半構造化インタビューを採用した。
参与観察	・11日間(2019年～2020年) ・2007、2008年度に筆者が会場の施設に勤務していた際の観察	調査対象者の活動の際の言動からインタビューで捉えられない考えや感情を明らかにするため
ドキュメントデータ	新聞掲載記事、地域運営組織・同好会作成の資料、感想ノート	調査対象者の活動、関連事項を明らかにするとともにインタビューの質問内容を作成するため

2 分析手法

SCAT (Steps for Coding and Theorization)

採用理由 : インタビュー内容を理論化するため。加えて、インタビューを実施した1グループ当たり人数が小数のため、小規模データで理論化できるとされる分析方法SCATを採用。

結果 : 合計125の理論記述を作成し「協力」を視点に主体毎に活動と意識に分けて時系列に並べ比較し特異性があると判断される記述を結果とした。